

第2回検討会以降の状況について

令和 7年	2月 4日	第2回「車両基地跡地広域交流拠点施設整備検討会」
	2月 8日	第2回ワークショップ開催
	2月18日	公益財団法人愛媛能楽協会から能舞台整備を求める署名の提出
	3月 8日	第3回ワークショップ開催
	3月10日	松山コンサートホールを創る会から市民会館の検討会に関する要望書の提出 文化芸術7団体から基本構想に則した基本計画づくりを求める要望書の提出
	3月17日	第3回「車両基地跡地広域交流拠点施設整備検討会」

ワークショップ報告(第2回)

開催日 : 令和7年2月8日(土)
 開催場所 : 松山センタービル4階 第1会議室
 参加者数 : 23名
 テーマ : 「やりたいこと」を実現する空間、備品を考えよう!
 ※開催前に、希望者に対して敷地見学を実施

結果抜粋

今回から、関心がある施設でグループを下記のとおりに分けて検討しました。

①主にホールについて考えるグループ：2グループ

②アリーナを含めた、まちづくり全体を考えるグループ：2グループ

①主にホールについて考えるグループ

- 参加者の多くは「ホール利用者」だったものの、演劇、音楽などの活動ジャンルの違いにより、同じ「ホール利用者」でも求める設備や規模が異なることを共有した。
- 様々な規模のホールのニーズが挙げたが、とくに小規模なホールでやりたいことが多く挙げられた。
- 発表、練習の場以外にも、舞台美術の製作場所、団体の事務作業室、団体同士の交流の場など、創造・交流機能へのニーズがみられた。

②アリーナを含めた、まちづくり全体を考えるグループ

- ホールについては演劇公演、コンサート、様々な市民の発表のニーズがみられた。
- アリーナについては各種プロリーグの試合や、子どものスポーツ体験、部活動での利用などを望む意見が多く挙げた。
- 地権者（市、県、JR四国、民間）の計画のすり合わせが大切であるという声があった。
- 観光、歴史などの情報発信拠点としての役割を求める声もあった。

共通

誰でも来られる場、のんびりできる場といった、自由な空間を求める声が全チームから挙げた。



ワークショップ報告(第3回)

開催日 : 令和7年3月8日(土)
 開催場所: 松山センタービル4階 第1会議室
 参加者数: 19名
 テーマ : 訪れやすい、使いやすいルールを考えよう!

結果抜粋

【共通してみられた意見】

- ・理想は、年中無休、24時間開館、無料で自由度の高い空間でさまざまに使えること。
- ・文化のことを理解する人材、融通のきくルールで運営をしてほしい。

【様々な意見】

項目	意見
休館日	・他施設とずらす(火曜日など)
開館時間	・貸室は時間を決めたとしても、共用部はいつでも行けるといい ・ホールは23時、練習室は24時間空いているといい ・顔認証などでいつでも入れるといい ・JRの運行時間に合わせて開館
貸出区分	・主催事業2/12、共催事業3/12、貸館事業7/12のように、12か月のなかで枠を分ける。共催対象は芸術ディレクターが調整する。 ・練習室は1時間単位 ・カスタマイズできるといい
利用料金	・市民は安いまたは無料 ・文化と興行のバランスを考える ・JRの切符を見せると割引 ・10回使うと1回無料 ・ポイント貯めると使える ・定期的な利用に定額制(サブスク)導入 ・変動価格制 ・災害時はキャンセル料など配慮してほしい

次回開催予定: 令和7年4月12日(土) 14時~

開催テーマ: 観る人、使う人、訪れる人...

人と人、人とエリアがつながる交流拠点の将来像とは?



アンケートの結果報告:類似規模アリーナへのアンケート

- 3,000席前後、5,000席前後、10,000席以上の客席を有し、興行実施実績のあるアリーナへ調査票を送付
- 回答結果より主な項目を抜粋

来場者用駐車場の数（有効回答 18 施設 うち10,000席以上5施設、5,000席前後8施設、3,000席前後5施設）

- ・客席規模に関係なく、0台～4,200台超まで幅広く回答があった。駅から徒歩圏内(10分以内)にあるアリーナでは、0台～百数十台と少なめの駐車台数の施設が多くみられた。

拠点とするBリーグクラブの有無（有効回答 18 施設 うち10,000席以上5施設、5,000席前後8施設、3,000席前後5施設）

- ・10,000席以上の施設は5施設中3施設において国際試合等を行うものの、拠点クラブを持たない。
- ・5,000席前後、3,000席前後は各規模1施設を除いて「あり」と答えており、拠点とするBリーグクラブを有する施設が多い。

整備費（有効回答 16 施設 うち10,000席以上4施設、5,000席前後7施設、3,000席前後5施設）

- ・設置時期によりさまざまだが、3,000席前後は50億円台、5,000席前後は100億円台が多く、10,000席台は、規模も幅が広いため、200億円前後～300億円台後半まで大きな差がみられた。

稼働率（有効回答 13 施設 うち、10,000席以上5施設、5,000席前後4施設、3,000席前後4施設）

- ・令和5年度の稼働率では、60%台4施設、70%台2施設、80%台3施設、90%台2施設、100%2施設といずれも高稼働であった。

運営費（有効回答 11 施設 うち、10,000席以上3施設、5,000席前後4施設、3,000席前後4施設）

- ・一部ないし全部非開示の施設が複数みられ、もっとも有効回答が少ない設問となった。
- ・支出規模は、10,000席以上は5億円台、5,000席前後は2億円弱、3,000席前後は1億円前後の回答がそれぞれ複数みられ、㎡あたり管理運営費は1.2～1.5万円程度であった。

第2回検討会の意見と論点 ①施設の機能分担について

論点：①アリーナとホールの併設 ②市民会館機能の確保

主な意見		対応方針
1. 地域全体での検討	- 施設単体ではなく、まち全体で考えていくべきであり、施設の機能分担が重要。 - 都市再生緊急整備地域の指定は松山市中心部がほとんど含まれていることもあり、単純にこの場所にアリーナを作るだけの話ではない。制度を活用して、市民会館や築40年のコミュニティセンターも含めて全体的なゾーニングを検討して欲しい。 - 県民文化会館やコミュニティセンターをどう活用するか等、地域全体で既存施設の活用も含めた棲み分けの議論を改めて行うべき。 - 松山に住むということを選択いただけるような素地として、観光のみならず地域住民の視点ももって、市域全体で検討して欲しい。	- 都市再生緊急整備地域の指定を勘案し、活用も検討する。 - 本敷地だけでなく、地域全体での棲み分けや地域住民の視点にも配慮する。
2. アリーナとホールの関係	- 今回の対象敷地は狭小であり、ホールとアリーナの併設にしても、この規模感で需要を満たすことは難しく、視野を広げて駅周辺などの近隣の活用を検討すべき。 - アリーナとホールの関係を整理すべき。ホールでは利用用途によって規模にバラツキがあり、市民会館機能全てをアリーナに入れるのは難しい可能性があるため、アセットの整理が今後必要。	限られた敷地の中で、全てのニーズを満たすことが困難な場合を想定し、事業像を明確にし、最適な規模、近隣との連携を勘案して検討を進める。
3. 市民会館・文化活動	- 市民会館の建て直しができないなか、いつまで使用可能か気になっている。文化活動には演じることもあれば、鑑賞することもあり、多様な立場での議論や検討が必要。 - 基本構想の5つの基本機能の一つとして文化創造があるなかで議論すべきところ、その打ち出しが弱くなっている。基本構想の内容に修正があったのであれば、その点をはっきり示した上で基本計画を整理いただきたい。 - 市民活動を行う場所はJR松山駅に必ずしも必要とは思っておらず、松山市駅周辺などであってもよい。	本敷地で実現し得る文化活動の場を検討する。

第2回検討会の意見と論点 ②車両基地跡地の新施設について

論点：③施設の主な利用方法 ④施設の規模 ⑤選ばれる施設となるための特徴 ⑥日常的な賑わい創出につながる取組

	主な意見	対応方針
4. 導入機能	・週末だけでなく、より日常から賑わいをつくれるとよく、市民の文化活動の拠点として、スタジオや発表の場というような日常的に人が集まれる施設になるとよい。 ・市民活動としての文化創造の場が不足しているのであれば、アリーナの中にスタジオを設置するなどして、スポーツと音楽・アートを行う場所があってもよい。 ・一般市民がスポーツ・文化に触れられるよう、一階フロアを上手く使えるようにすべきである。 ・普段使いのスタジオはサブアリーナを使うということもよい。	・限られたスペースを有効に活用するため、多機能化等検討して対応することを目指す。また、市民がスポーツや文化に触れる機会を創出する施設となるよう機能配置等を工夫する。
5. 規模	・一流のアスリートやアーティストが訪れるような施設にするための適正規模が必要。 ・引続き利用可能性や条件について整理するとともに、来年度サウンディング調査で「選ばれる施設」について徹底的にニーズを確認して応えていくことが必要。	・具体的な規模は、先の調査に加え、ニーズを確認して精査する。
6. 新施設の活用・効果	・今、プロスポーツが行おうとしていることは、地域経済・地域創造を活性化していくことであり、行政と民間がお互いに相応のリスクを分担しヘッジしながら、まちの未来をつくっていくということが重要。 ・体育館をアリーナに変えて、収益化して地域貢献していくという観点からもアリーナをどう作るかということを検討いただきたい。 ・市民利用に加えてスポーツの国際大会誘致といった可能性も検討すべき。	・経済効果をはじめとして、見込まれる地域への効果を精査し、様々な活用可能性を視野に入れて検討を進める。
7. 都市間競争	・松山市には道後温泉や従来のまちなみの中で賑わいもあり、文化やスポーツどちらにとってもJR松山駅は、アリーナ候補地として魅力がある。 ・都市間競争として広島・中四国で競争し合うという見方もあるが、松山の魅力をどのように世界に発信していくかが重要。松山にはまだまだコンテンツが眠っているが、地域経済だけで活性化していくことは難しく、他エリアから人を呼び込むことが必要。 ・単にアリーナを建設するだけでは、他地域のアリーナとの競合には勝てない。	・他地域のアリーナの動向を把握・分析した上、選ばれる施設となるよう規模を精査するとともに、松山の魅力を活かすことを検討する。
8. 事業化・運営に関すること	・運営面に関してはシビアに検討すべき。そうでなければ、事業者から参画の手が挙がらないということにもなりかねないため、しっかり検討いただきたい。	・運営面も含めて事業を精査するとともに、先の調査に加えて実施するサウンディングの意見を反映して事業を検討する。

目指す新施設のイメージ

ビジョン：四国の玄関口として域内外から人を引き付けるエリアとするための中核施設を目指す

- ①スポーツ、エンターテインメントをはじめとする賑わい交流機能等、新たな魅力の創造によって、都心地域の活性化を図る
- ②市民が日常的に利用・交流可能な機能を導入し、日常の賑わい創出を図る
- ③交通結節機能を活かした来街者増・交流人口増が期待できる機能を選定し、周辺と連携した効果的な施設づくり、エリア開発を目指す

目指す施設像

- Bプレミアム基準の5,000席以上の規模で、これまでにない環境でプロスポーツの観戦を楽しめる施設
- コンサートなどのエンターテインメントやコンベンションなど、多目的に利用できる施設
- 市民が練習や発表など、様々な活動に利用できる施設
- 新たな地域の活性化、賑わいを創出する施設
- 防災機能を高める施設

検討会の進め方

検討会スケジュール（案）

回数	時期	テーマ(案) ■…報告・説明事項
第1回	11月	■検討経緯、上位計画などでの本施設の位置付け ■施設の将来像 ■団体などからの意見 ■施設の導入機能と規模 ■今後の進め方
第2回	2月	■第1回検討会以降の状況(ワークショップ、ヒアリング報告等) ■対応方針
第3回	3月	■第2回検討会以降の状況(ワークショップ、アンケート報告等) ■第2回検討会の意見と論点の整理等 ■今後について
第4回	4月	■第4回ワークショップ報告 ■基本計画素案の確認
第5回	6月	■パブリックコメント反映後の基本計画成案確認

※基本計画を基に、事業スキーム・管理運営方法の検討、民間事業者へのサウンディングを並行して実施